

第4節 人口の将来展望

1 調査結果から見る現状とニーズ

羽村市の人口ビジョンを策定するにあたり、羽村市外在住者、羽村市転入者及び若者の現状とニーズを把握するため、調査を実施しました。

(1) 羽村市のイメージに関するアンケート調査結果（インターネットによるモニター調査）

調査期間：平成27年7月17日～7月21日

対象：羽村市以外の東京都（10～20代は1都3県）在住者のうち羽村市を認知している方

回答数：2,065人

■調査設計について

調査手法等の内容は、以下のとおりです。

調査手法	インターネット・モニター調査
調査地域	詳細後述
調査対象	インターネット・モニターから条件合致者を抽出
標本サイズ	1,800 サンプル想定
標本抽出方法	詳細後述
調査ボリューム	スクリーニング調査 11 問、本調査 15 問

10～60代までの各年代において、それぞれ150サンプル程度の回答を確保するため、出現率を考慮し、以下の調査地域を設定しました。

年代	調査地域
10～20代	首都圏(1都3県)
30～60代	多摩27市町(※)+豊島区、新宿区、杉並区、渋谷区

※ 多摩27市町は、以下のとおり。

八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、あきる野市、西東京市、西多摩郡瑞穂町、西多摩郡日の出町

上記調査地域在住者を対象に、羽村市の認知3択（『羽村市』の場所を知っている）、『羽村市』の場所は知らないが、名前は聞いたことがある）、『羽村市』の場所も名前も知らなかった）で聴取し、場所あるいは名前の認知者を対象に本調査を実施しました。

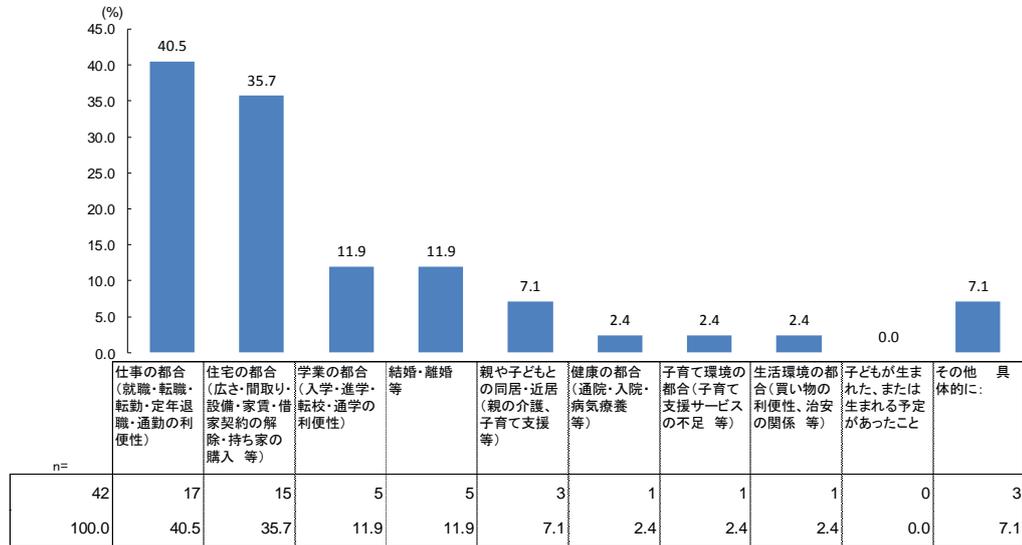
■回答者属性について

回答者の属性は、以下のとおりです。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
TOTAL	男性15-19歳	男性20-29歳	男性30-39歳	男性40-49歳	男性50-59歳	男性60-69歳	女性15-19歳	女性20-29歳	女性30-39歳	女性40-49歳	女性50-59歳	女性60-69歳
2065	163	170	176	180	174	178	168	177	169	168	174	168
100.0	7.9	8.2	8.5	8.7	8.4	8.6	8.1	8.6	8.2	8.1	8.4	8.1

■羽村市からの転出理由（複数回答）＜ベース：羽村市居住経験者＞

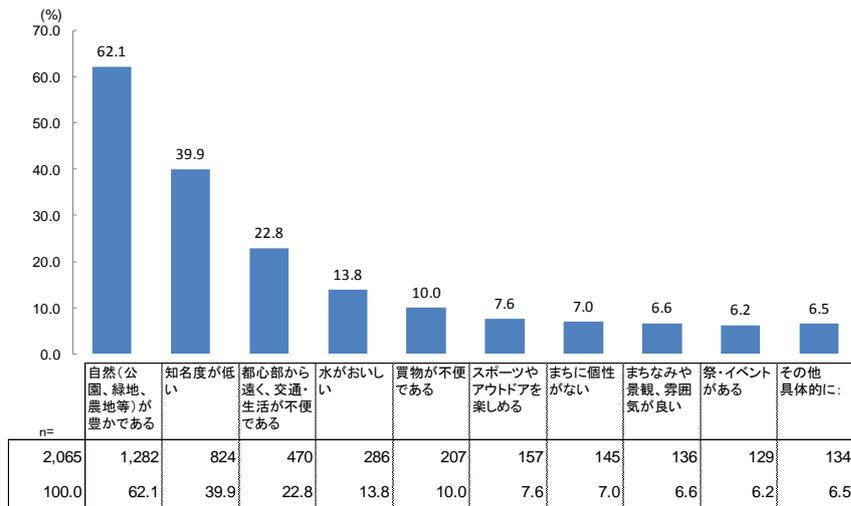
全回答者 2,065 サンプルのうち、羽村市居住経験があるものは 42 サンプルでした。その羽村市からの転出理由は、「仕事の都合（就職・転職・転勤・定年退職・通勤の利便性）が 4 割（17 サンプル）、次いで「住宅の都合（広さ・間取り・設備・家賃・借家契約の解除・持ち家の購入等）が続きます。



■羽村市の印象（複数回答） ※上位 10 項目のみ表示

羽村市の印象について聴取したところ、上位 10 項目は以下のとおりです。

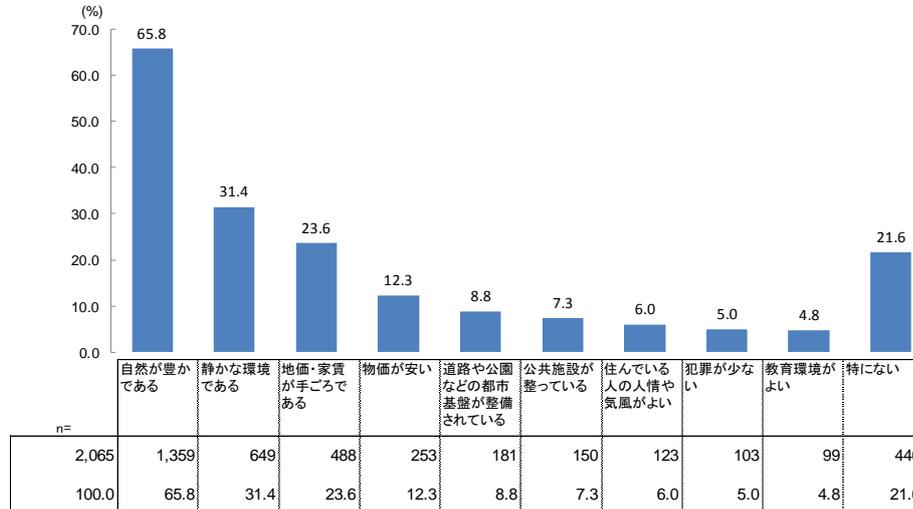
「自然（公園、緑地、農地等）が豊かである」が 6 割を超えています。次いで、4 割近くが「知名度が低い」と回答しています。



■羽村市の魅力（複数回答） ※上位10項目のみ表示

羽村市の魅力について聴取したところ、上位10項目は以下のとおりです。

「自然が豊かである」は6割強の人が魅力を感じています。次いで「静かな環境である」が続きます。一方で、「特にない」と回答した人は2割を超えています。



「多摩地域におけるシティプロモーションについて（平成26年2月、東京都市長会）」でも、多摩地域以外在住者対象の調査において、多摩地域の強みとして「公園が多く、豊かな自然に恵まれている」が第1位に挙げられていることから、羽村市の独自性を打ち出すためには、他の要素が必要であると考えられます。

■将来の居住意向・予定

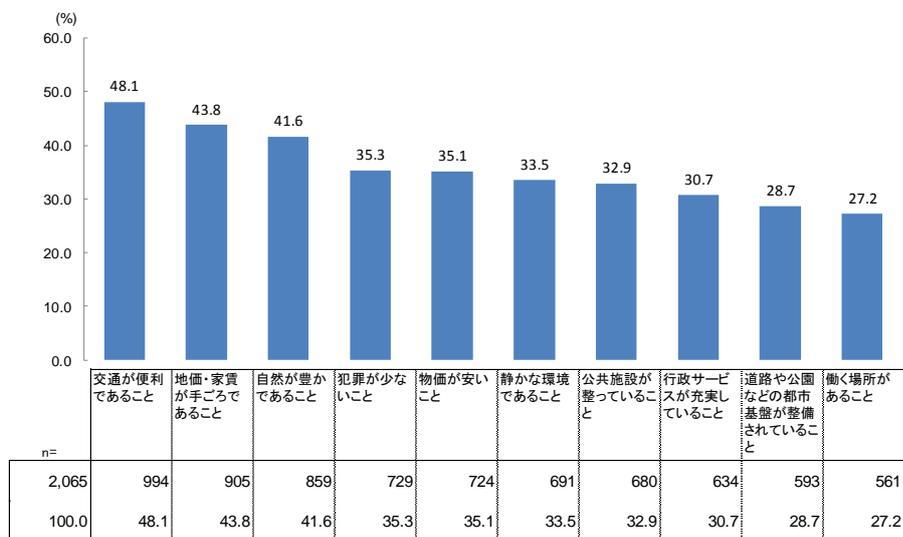
将来の居住意向・予定は、以下のとおりです。



■羽村市に居住するにあたり必要な要素（複数回答） ※上位10項目のみ表示

居住にあたり必要な要素を聴取したところ、上位10項目は以下のとおりです。

「交通が便利であること」が最も高く、次いで「地価・家賃が手ごろであること」が続きます。



前述の東京都市長会による調査では、多摩地域の強みの第3位として「居住コストが安い」が挙げられています。一方、多摩地域の弱みとして、「買い物に便利である」、「公共交通網が充実している」が第1位、第2位に挙げられていました。

こうした全体的な強みと弱みの要素を踏まえつつ、個別の声を聴き、施策を推進していく必要があります。

(2) 転入者アンケート結果（郵送によるアンケート調査）

調査期間：平成27年7月3日～7月21日

対象：過去1年以内に羽村市に転入した18歳以上の男女1,000人

有効回答数：314人（回収率31.4%）

■調査設計について

調査手法等の内容は、以下のとおりです。

調査手法	郵送配付・郵送回収
調査地域	羽村市内
調査対象	過去1年以内に羽村市に転入した18歳以上の男女
標本サイズ	1,000サンプル
標本抽出方法	住民基本台帳から、上記条件合致者のうち、20～30代女性を中心に同一世帯登録者を除いて抽出
調査ボリューム	19問

■回答者属性について

回答者の属性は、以下のとおりです。

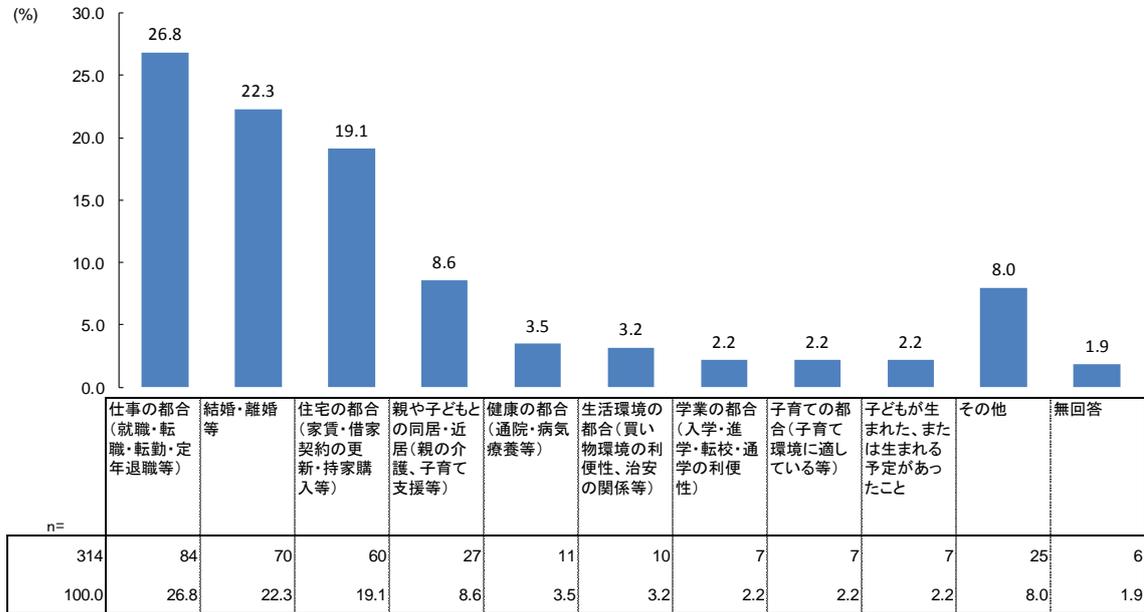
TOTAL	男性	女性	回答しない	無回答
314	80	223	3	8
100.0	25.5	71.0	1.0	2.5

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代以上 ■ 無回答



■羽村市に転入するきっかけ

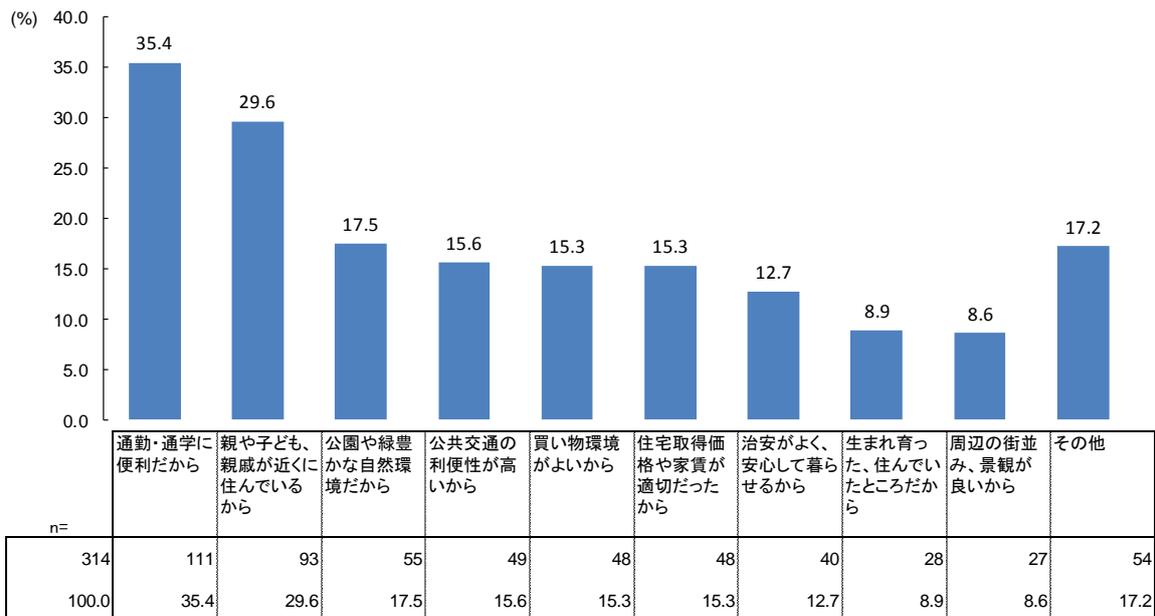
羽村市に転入するきっかけは、「仕事の都合（就職・転職・転勤・定年退職等）」、「結婚・離婚等」がそれぞれ2割を超えています。次いで「住宅の都合（家賃・借家契約の更新・持家購入等）」と続いています。



■転入先として羽村市内の居住地を選んだ理由（複数回答） ※上位10項目のみ表示

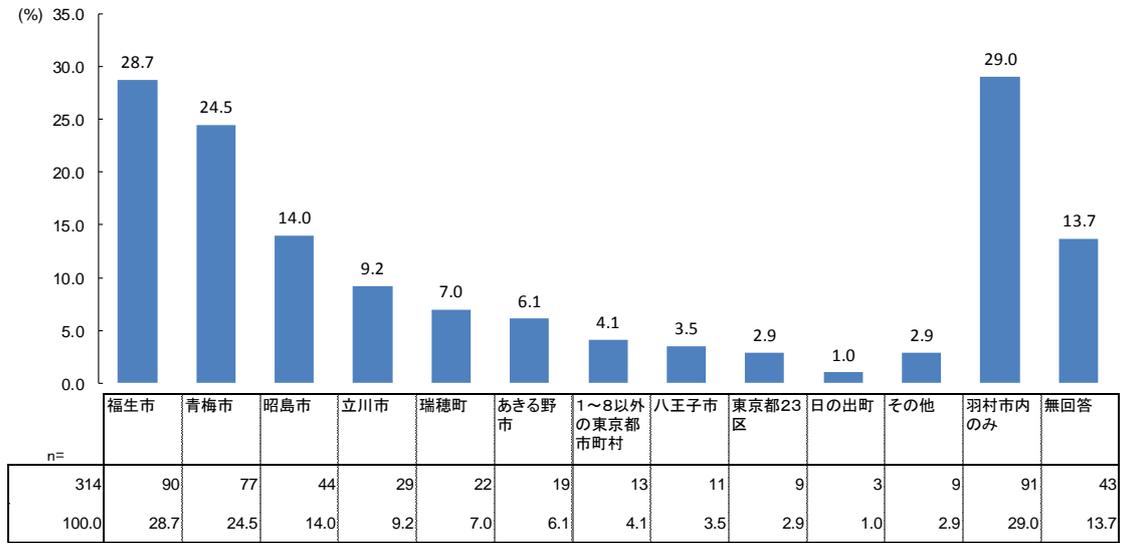
転入先として羽村市内の居住地を選んだ理由の上位10項目は、以下のとおりです。

「通勤・通学に便利だから」が最も高く、「親や子ども、親戚が近くに住んでいるから」、「公園や緑豊かな自然環境だから」と続きます。



■ 転入先候補地（複数回答）

羽村市以外に転入を検討した地域として、「羽村市のみ」が最も高く、次いで「福生市」、「青梅市」と続きます。

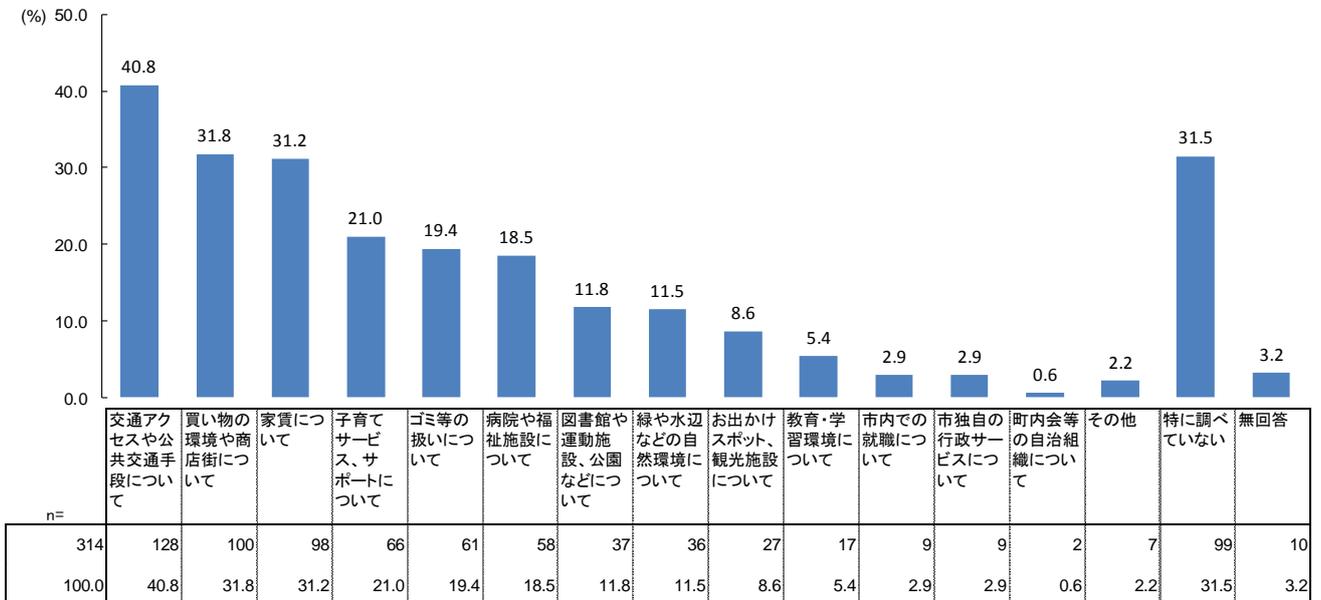


■ 転入する際の情報収集内容（複数回答）

羽村市に転入する際の情報収集内容は、以下のとおりです。

「交通アクセスや公共交通手段について」が4割を超えており、次いで「買い物の環境や商店街について」、「家賃について」と続きます。

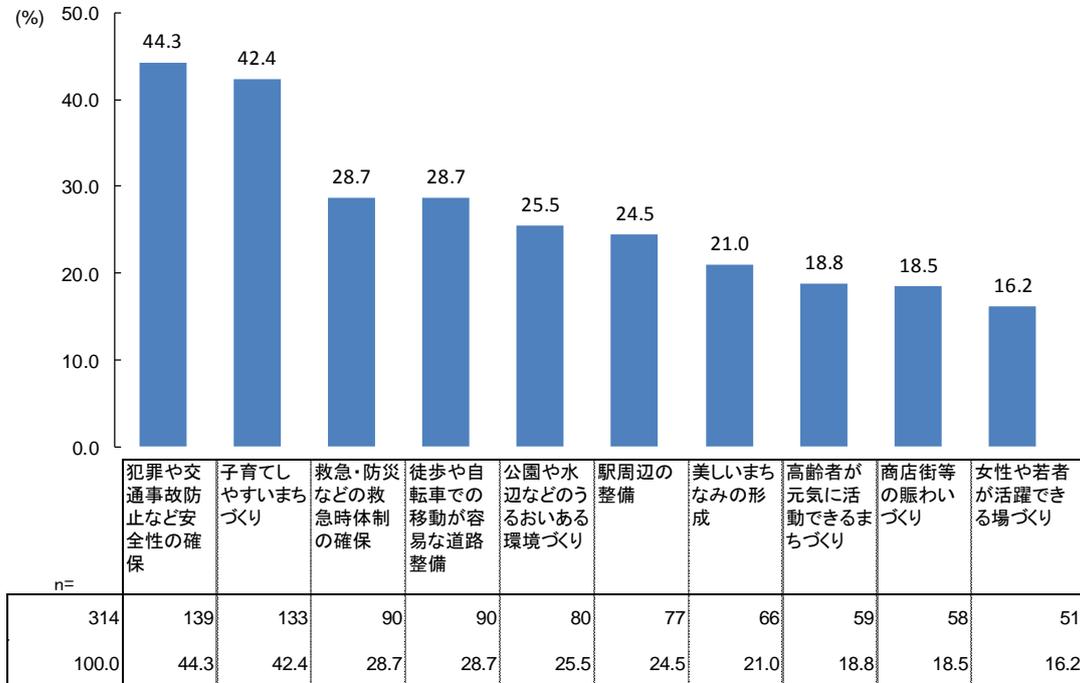
一方で3割の人は「特に調べていない」と回答しています。



■羽村市のまちづくりに期待すること（複数回答） ※上位10項目のみ表示

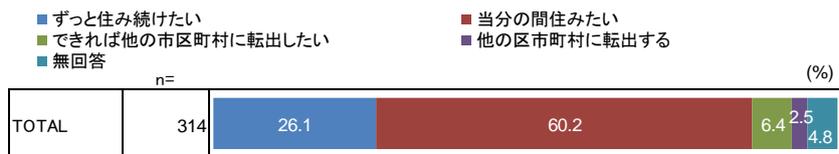
羽村市のまちづくりに期待することの上位10項目は、以下のとおりです。

「犯罪や交通事故防止などの安全性の確保」が最も高く、次いで「子育てしやすいまちづくり」と続きます。



■継続居住意向

継続居住意向は、「ずっと住み続けたい」が26.1%、「当分の間住みたい」が60.2%となっています。



前述の東京都市長会による調査では、多摩地域在住者の継続居住意向として「ずっと住み続けたい」が約4割、「当分は住み続けたい」が約5割と高くなっています。羽村市は、転勤による転入者が多いと考えられること等も要因になっていることが想定されます。

■今後のまちづくりに向けたご意見（自由記述）

自由回答として、次のような声が寄せられました。

- スポーツができる環境（テニスコート、野球場、公園）が多くてよい。（10代男性）
- 図書館が充実していてよい。（40代女性、70代女性）
- スーパーが遠い。（10代女性）
- 娯楽施設がほしい。（10代男性）
- 夜間の治安に不安があるため、街灯を増やすなど、防犯に力を入れてほしい。（20代女性、30代女性、20代男性、30代男性、40代女性）
- 季節ごとのイベント、若者のためのイベントや居場所が欲しい。（20代女性）
- 育児相談や講座・教室などを平日昼間だけでなく夕方や土日祝日も開催してほしい。（20代女性、30代女性）
- 小児専門の医療機関や産婦人科など、充実した医療機関が少なくて不便。（30代女性、20代男性、60代女性）
- 子どもが遊べる場所（児童館や公園など）を増やしてほしい。（30代女性）
- ベビーカーでも安心して歩ける歩道を整備してほしい。（20代女性、30代女性）
- 自転車と歩行者が安心できる道路に整備してほしい。（40代女性、40代男性）
- こうした転入者を対象としたアンケートは継続してほしい。（20代女性）
- ごみの分別方法が分かりづらい。（40代女性、60代女性）

(3) グループミーティング（転入5年以内の市民を対象）

開催日時：平成27年7月18日（土）

対象：過去5年以内に羽村市に転入した方

参加者数：4人

■対象者の募集について

グループミーティングの参加者の募集方法は、以下のとおりです。

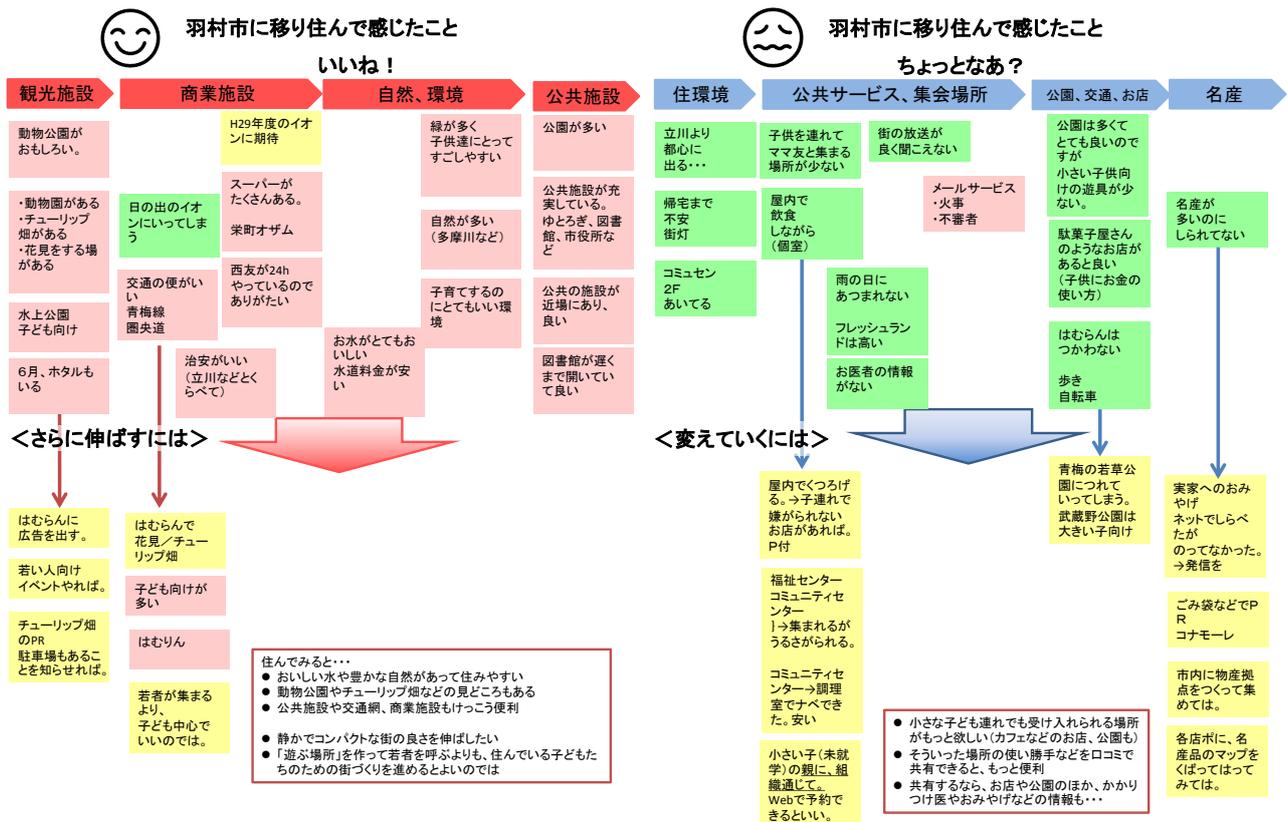
- 「広報はむら」（平成27年7月1日号）への掲載
- 羽村市ウェブサイトへの掲載
- 転入者アンケートへの掲載 等

■出された意見について

グループミーティングでは、羽村市に移り住んで感じたことについて、良い面（「いいね！」と感じた面）とより良くしたい面（「ちょっとなあ？」と感じた面）の双方を聴取しました。

出された意見はふせんに貼って参加者に共有し、良い面をさらに伸ばすにはどうすればよいか、より良くしたい面を変えていくにはどうすればよいか、話し合いを進めました。

話し合いの結果は、以下のとおりでした。



(4) 羽村市若者意識調査結果（抜粋）

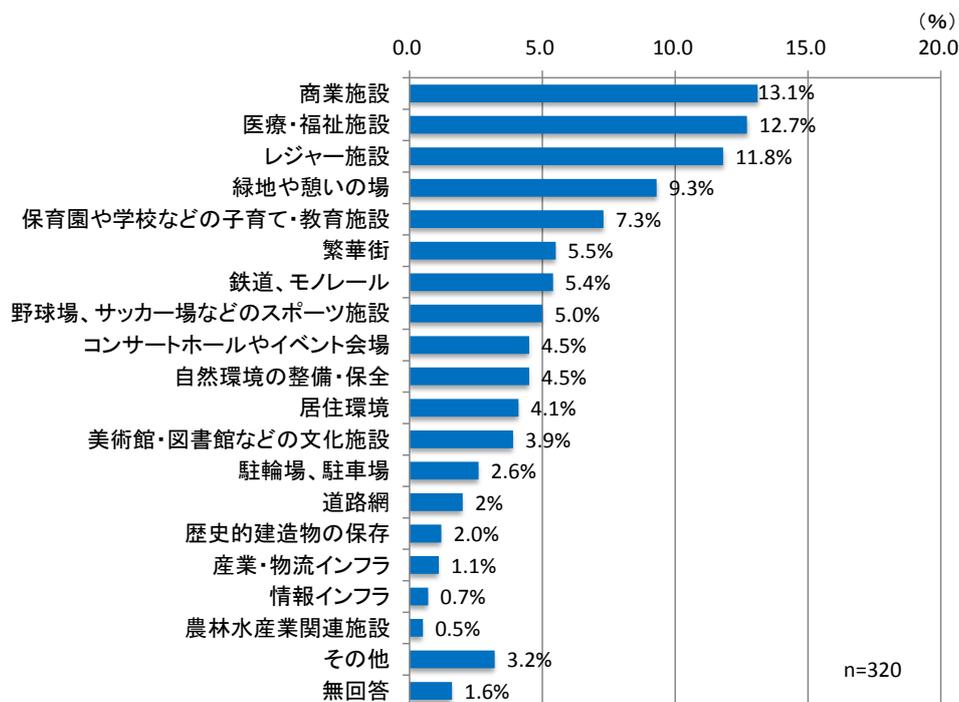
調査機関 平成 26 年 8 月 26 日～9 月 5 日

対 象 市内在住の 18 歳～39 歳の若者 1,200 人

回 答 数 320 人（回収率 26.6%）

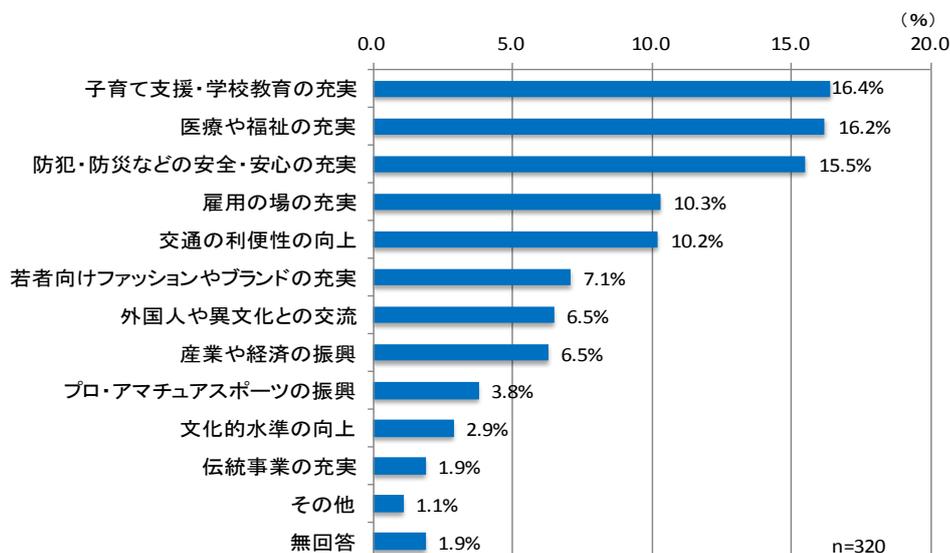
■羽村市にあると良い施設（ハード面）について

羽村市にあると良い施設等は「商業施設」が 13.1%と最も多く、次いで、「医療・福祉施設」12.7%、「レジャー施設」11.8%となっています。



■羽村市にあると良いサービス等（ソフト面）について

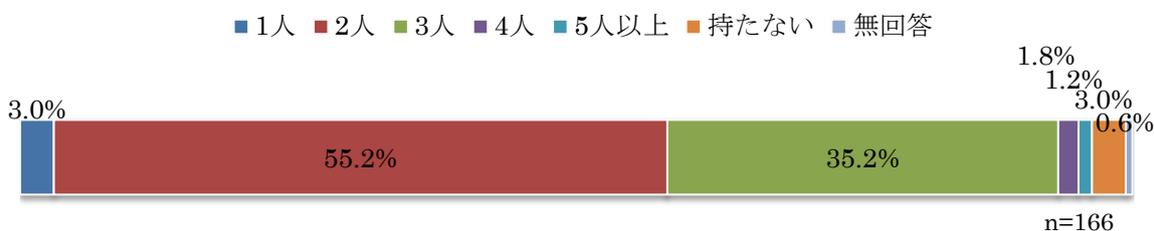
羽村市にあると良いサービス等は、「子育て支援・学校教育の充実」が 16.4%と最も多く、次いで、「医療や福祉の充実」16.2%、「防犯・防災などの安全・安心の充実」15.5%となっています。



■理想的な子どもの人数について

理想的な子どもの人数については、「2人」と答えた方が55.2%、「3人」と答えた方が35.2%と多くなっています。

理想としては、2人以上の子どもの持ちたいという希望が多いことが分かります。



■実際に持ちたい子どもの数について

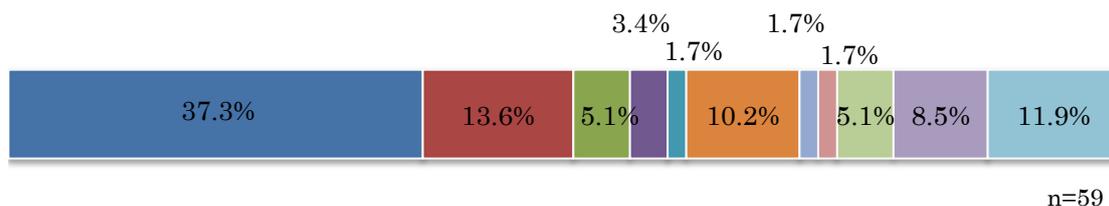
上記の回答者に実際に持ちたい子どもの人数を聞いたところ、「1人」が11.6%、「2人」が63.4%と理想の子どもの人数よりも多くなる結果となりました。



■実際に持ちたい子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由について

実際に持ちたい子どもの数が、理想とする子どもの数より少ない方にその理由について尋ねたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(37.3%)、「年齢上の理由から」(13.6%)、「ほしいけれどできないから」(10.2%)という声が多くありました。

- 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
- 年齢上の理由から
- 育児の心理的、肉体的負担が大きいから
- 自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから
- 家が狭いから
- ほしいけれどできないから



■羽村市のまちづくりに対するご意見・ご提案（自由記述）

〈主な意見・提案〉

まちの賑わい・活性化

- ・仕事帰りに羽村駅周辺で立ち寄れる店舗がほしい
- ・駅前にカフェ等の集える場がほしい
- ・商店街の活性化
- ・青梅線の西側の活気。古き良き所を活かし、のんびりと気軽に散歩できるような街並みに整備したら市外の人にも誇れる
- ・子連れで遊べるレジャー施設の誘致

出会い・婚活

- ・婚活イベントの開催
- ・結婚して羽村市に住むと特典が付くといい

都市基盤の整備等

- ・駅の周辺の道路の改修
- ・羽村街道を羽村大橋に早期に直結させる
- ・公園の美化

医療・子育て

- ・市内に総合病院がほしい
- ・小児科を増やしてほしい。子どもの健診、予防接種の予約がすぐに埋まってしまう
- ・保育園以外の、授乳施設の増設

公共交通

- ・青梅線の増便

防犯・防災

- ・街灯の増設
- ・防犯カメラの設置

地域コミュニティ

- ・新住民に負担の少ない地域コミュニティの醸成
- ・行政と企業が協力した、子育てや地域振興に関する活動の実施
- ・市民提案制度の実施、活動の可視化

その他

- ・若者を対象としたイベントの充実
- ・スポーツセンターでの託児サービスの実施
- ・企業誘致やフィルムコミッション等の促進
- ・独身者へのサポートの充実
- ・市のイベント情報等を手軽に取得できるアプリの開発
- ・音楽がやりやすい環境整備
- ・市の名物（食べ物、自然など）のPR
- ・市全体を盛り上げるイベントなどの充実

■羽村市に対するご意見・ご要望（自由記述）

〈主な意見・要望〉

防犯・防災

- ・街が暗い。街灯を増設してほしい

医療・子育て

- ・産婦人科を増やしてほしい
- ・医療や福祉を充実してほしい
- ・小児科が少ないので不便
- ・総合病院があってほしい
- ・夜間診療の充実
- ・安心して出産・育児できる子育て支援の充実
- ・高校3年生まで医療費無料
- ・妊娠中や子育て中の家庭に対する財政支援
- ・子育てママが集い、子育て相談、情報共有ができるカフェがあるといい
- ・子育ての場や病院などの情報を特集した情報誌等があるといい
- ・ワクチンプログラムの負担が増えている。3ヵ月健診とBCG以外も保健センターで実施してほしい
- ・学童の待機児童の解消

都市基盤の整備等

- ・線路沿いの道路の改修

公共交通

- ・青梅特快の本数増加
- ・バスの増便
- ・コミュニティバスはむらんの充実

その他

- ・公共施設が多すぎるため、今後の維持管理や人件費に課題がある
- ・動物公園のラクダが増えると嬉しい
- ・平日にもイベントを開催してほしい
- ・外国人が住みやすい街づくり
- ・羽村市の知名度向上
- ・シティプロモーションの充実
- ・婚活イベントの開催
- ・駅周辺に自分の時間を過ごせるおしゃれなカフェがほしい
- ・市主催の花火大会の開催

2 目指すべき将来の方向

(1) 現状

人口の減少

- ・羽村市の人口は、平成 22 年（2010）9 月 1 日現在の 57,772 人をピークに減少傾向にあり、平成 27 年（2015）8 月 1 日現在では 56,545 人と、ピーク時から 1,227 人減少しています。
- ・平成 22 年 9 月 1 日と平成 27 年 8 月 1 日における生産年齢人口の比較では、男性、女性ともに 35 歳～39 歳で大きく減少しており、中でも、女性が 644 人・26.9%と最も大きな減少となっています。また、20 歳～24 歳では、女性が男性を上回る 116 人・8.0%の減少となっています。
- ・平成 17 年（2005）に、年少人口を老年人口が上回ってから、差はますます開き、今後、何の対策も講じなければ、平成 72 年（2060）には、現役世代 1.45 人で高齢者 1 人を支えることとなります。

社会減

- ・社会増減は、平成 19 年（2007）に転出者数が転入者数を上回る転出超過となって以降、その傾向は続いています。
- ・近年の人口移動を年齢 3 区分別人口で見ると、平成 25・26 年度は、大手事業所の撤退等の影響により大きな転出超過になったと捉えられますが、平時では、0 歳～14 歳と 15 歳～64 歳が転出超過の傾向にあり、中でも 15 歳～39 歳の減少傾向が高く、男女別の割合では、女性の減少割合が高くなっています。

自然減

- ・自然増減は、出生者数が、平成 14 年（2002）の 600 人から緩やかに減少している一方で、死亡者数は、緩やかに増加し、平成 24 年（2012）には、死亡者数が出生者数を上回り、自然動態が減少に転じています。
- ・市民の婚姻の状況は、都内でも男性は晩婚、女性は早婚の傾向にあり、女性の未婚率は、20 代から 30 代にかけて急激に減少しており、30 代から 40 代の未婚者数が男性に比べて極端に少ない状況にあります。女性の未婚率が急激に減少する要因の一つに、前述の人口移動の影響が考えられます。
- ・羽村市の合計特殊出生率は、高い数値にあるものの、15 歳～49 歳の女性が減少している状況から、出生者数が減少しており、人口の増加につながらない結果となっています。
- ・婚姻数は、平成 22 年（2010）以降、減少傾向にあり、出生者数が減少している要因の一つと考えられます。

消滅可能性都市への懸念

- ・将来人口推計について、平成 22 年（2010）の合計特殊出生率 1.50 が継続するものとして推計した場合、平成 52 年（2040）の総人口は 50,393 人となりました。この中で、20～39 歳の女性の人口は 4,843 人となり、平成 22 年（2010）から約 29.1%減少し、平成 72 年（2060）には 3,689 人となり、約 46.0%減少することが見込まれており、日本創生会議が平成 26 年（2014）に提唱した「消滅可能性都市」の 50%に近づいていくおそれがあります。

以上のことから、現在の羽村市の人口減少は、少子化と若い世代の流出に加えて、少子高齢化も進展していることが大きな要因と考えられます。今後、何も対策を講じなければ、更なる人口の減少を招くとともに、地域経済が縮減する、縮小スパイラルに陥る危険に直面しており、人口減少への対策は最優先に取り組む喫緊の課題であります。

(2) 課題

人口の減少

- ・人口の減少及び少子高齢化の進展、地方創生施策の実施に伴う人口推計などを参考に、市が保有する公共施設等の更新及び整理・統合について検討する必要があります。
- ・人口減少の克服にあたっては、明確なターゲットを設定し、重点的な施策に取り組んでいくことが必要であります。

社会減

- ・近年の社会増減の要因を分析すると、女性を中心とした若い世代が、進学、就職及び結婚等を契機に転出していることが考えられることから、若い女性や若いファミリー世帯をターゲットにさまざまな施策を展開していくことが必要であります。
- ・若い世代が魅力とを感じるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

自然減

- ・羽村市の現状を見ると、理想とする子どもの数よりも、実際に持つ子どもの数が少なくなる傾向があり、その理由として教育・子育てにお金がかかること、年齢上の理由、欲しいけれどできないなどが挙げられていることから、こうした支援に取り組むことも必要な要素であると考えられます。
- ・羽村市の合計特殊出生率は、国や東京都内の平均に比べると、上位にあることから、羽村市に定住する方々にとっては、安心して子どもを生み育てられる環境があると考えられるため、羽村市での子育ての魅力をしっかりPRしていくことが必要であります。

(3) 施策の方向性

羽村市の人口減少を克服するためには、これまで分析してきた羽村市の現状及び、国の将来人口の推計シミュレーションにおいて、社会増減による影響よりも自然増減による影響が大きいことなどに基づき、羽村市の方向性として、女性を中心とした若い世代の流出を抑制するとともに、若い世代の新たな流入も求めていく中で、出生者数の増加につなげていくことが必要であります。

若者や子育て世代が魅力と感じ、羽村市に住み続け、子育てをしたいと思う環境を実現するために、今後の取り組みにおいては、次の4つの施策の方向性に沿って施策を展開していきます。

- 1 近隣自治体へ若者が流出している「人の流れ」を変え、人口流出を抑制する
- 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、出生者数の増加につなげる
- 3 中心市街地の活性化のため、「選択と集中」の考えを徹底し、産業振興施策に取り組むことで地域に活力を生み出す
- 4 市の魅力を効果的に発信することで認知度を向上させ、来街者の増加につなげる

3 人口の将来展望

国の長期ビジョン及びこれまでの推計や分析等を考慮し、基本目標を踏まえ、仮定値を設定し、将来人口規模を展望します。

・合計特殊出生率

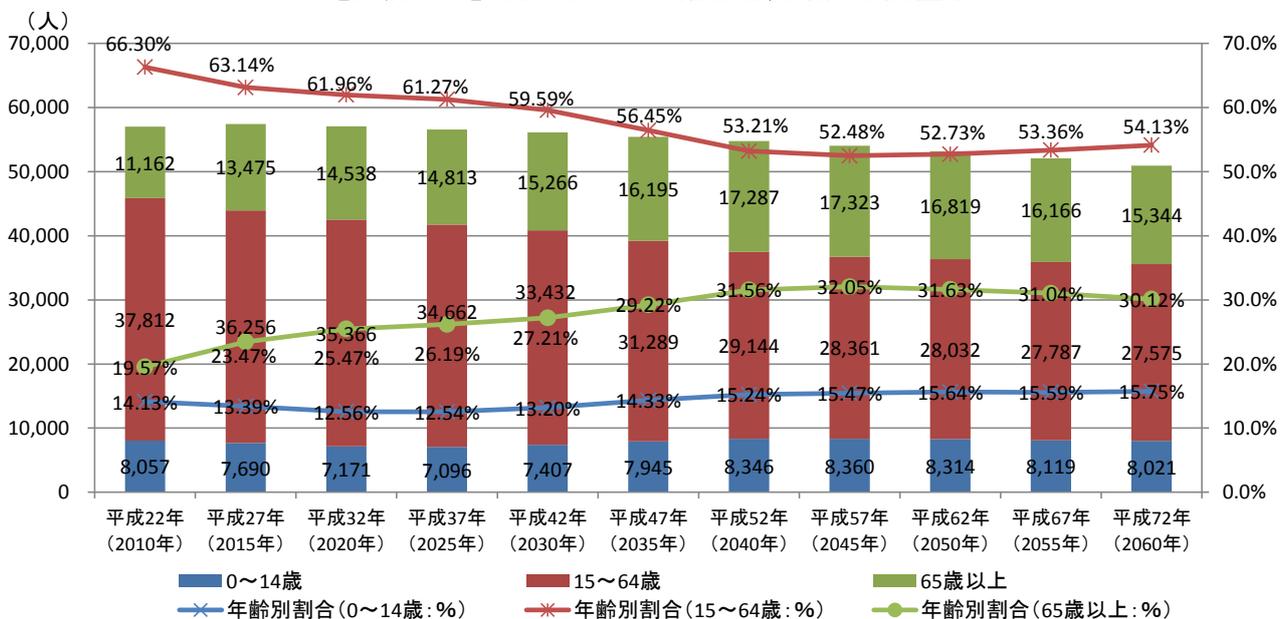
平成22年(2010)の1.49から、平成32年(2020)は1.50とし、国のシミュレーションに合わせ、平成37年(2025)に1.80、平成42年(2030)に2.10とし、合計特殊出生率が国より高い水準にある市の特性を活かし、平成52年(2040)以降、2.20にまで引き上げていきます。

・移動数

羽村市の20代～30代の転出超過を抑制することに加え、20代～30代で毎年、各10人程度の転入超過を実現していきます。

このように合計特殊出生率と移動数を改善することによって、平成72年(2060)においても、50,000人規模の人口を見込むことができます。

【図表50】羽村市の人口推移と長期的な見直し



	平成22年 (2010年)	平成32年 (2020年)	平成42年 (2030年)	平成52年 (2040年)	平成62年 (2050年)	平成72年 (2060年)
年少人口 0～14歳	8,057	7,171	7,407	8,346	8,314	8,021
生産年齢人口 15～64歳	37,812	35,366	33,432	29,144	28,032	27,575
老年人口 65歳以上	11,162	14,538	15,266	17,287	16,819	15,344
合計	57,031	57,074	56,106	54,777	53,165	50,940

社人研推計によるパターン①における羽村市の人口減少28.2%に対し、施策を講じることで、人口減少割合を10.7%に抑えることを目標とします。

第五次羽村市長期総合計画において、平成33年度の目標人口を57,000人としているとおり、羽村市長期人口ビジョンにおいても、前年にあたる平成32年(2020)の目標人口を57,000人とします。また、平成72年(2060)の目標人口は、50,000人の人口維持を目指すこととします。

4 長期的な見直し

社人研の推計によると、羽村市の高齢化率は、平成72年(2060)に36.89%まで上昇が見込まれていますが、羽村市の独自の推計では、人の流出を抑制し、若い世代の転入を促すとともに、出生率を高めていく施策を展開することで、その効果が着実に反映され、合計特殊出生率と移動数が仮定値のとおり改善できれば、高齢化率は、平成52年(2040)の31.56%をピークに、平成72年(2060)には30.12%にまで低下するものと推計されます。

【図表51】羽村市の高齢化率の推移と長期的見直し

